

BOOK Review

薬剤師レジデントマニュアル 第2版



評者 半谷 眞七子 名城大薬学部准教授・病院薬学研究室

薬剤師が暗中模索で患者への適切な薬物療法を提供する時代は終わり、今や薬剤師の誰もが一定のレベルのサービスを行うことが求められている。本書は、入職1～2年目の新人薬剤師や、新しい病棟や在宅医療を担当する薬剤師、またこれから実務実習を行う薬学生にとっても、適切な薬物療法を提供するためのポイントをつかむことができる必携の一冊となっている。

本書は2部構成になっており、前半は調剤、医薬品情報(DI)、フィジカルアセスメント、薬剤管理指導の要点について、後半は喘息、糖尿病、高血圧など主要54疾患について、患者の状態把握、標準的処方例、薬学的ケア、処方提案のポイントなど留意すべき事項がまとめられている。特に、各疾患の項目では、治療ガイドライン・標準治療がアルゴリズムなどでわかりやすく図表化され、臨床検査値の基準値一覧やバイタルサインなどのフィジカルアセスメントについても掲載されているので、患者の病態や臨床経過の把握とこれに伴う薬物療法モニタリングの評価に欠かせない内容となっている。臨床の現場では、「Kが高い患者の輸液は?」「合併症がある患者の血

圧の目標値は?」「せん妄を引き起こしやすい薬剤は?」「この患者にこの薬は必要?」と日々変動する患者の症状に合わせた適切な薬剤選択が求められる。医薬品集やインタビューフォームなどを検索する前に、本書の場合は索引から簡単に必要な情報にたどりつくことができ、現場での素早い対応が可能となる。

わが国では超高齢社会を迎え、薬剤師も高齢者の薬物療法には特に注意を払わなくてはならない。本書の第6章「高齢者に対する薬物療法の注意点」の中では、高齢者における薬物動態の変動やポリファーマシーへの対策、処方整理のアプローチ方法が取り上げられており、高齢患者への対応に非常に参考になると思われる。併せて、巻末には「腎機能低下時に特に注意が必要な薬剤とその投与量」が薬剤ごとに腎機能低下時のC_{cr}に合わせた用法用量が掲載されており、明日から現場で活用できる実践的な内容となっている。

本書『薬剤師レジデントマニュアル』第2版は、質の高い薬物療法を提供する薬剤師のバイブルとなるであろう。

橋田 亨, 西岡 弘晶 編

B6変型/426頁/2018年/定価(本体3,400円+税)/ISBN978-4-260-03263-6/医学書院刊